

# 野鳥の高病原性鳥インフルエンザウイルス感染源としてのリスク評価 (鳥取大学)

鳥類は一つの種ではない！

種が違えば高病原性鳥インフルエンザウイルス  
に  
対する感受性も異なっている

野鳥を用いた感染実験

カモ類  
希少種ツル  
猛禽類 (トビ)  
ミヤマガラス  
マガン

症状の把握  
死亡率  
潜伏期間  
ウイルス排泄量  
排泄期間  
体内分布  
病理変化  
回収ウイルスの変異など



鳥種ごとのリスク評価  
飛来情報との連携

### 1. 感染実験対象種決定（計4種）：

オシドリ、オナガガモ（早期発見のための監視対象種）  
ヒドリガモ、マガモ（感受性が低い？）

### 2. 捕獲日程・捕獲場所選定、 鳥獣保護法による捕獲許可証取得済

オナガガモ（千葉県我孫子市、1月30—31日）  
ヒドリガモ（福岡県福岡市、2月10—14日）  
マガモ（宮崎県宮崎市、2月21日—22日）

### 3. オシドリ（人工繁殖個体）の感染実験解析結果

- 1) 2010-11年のH5N1国内流行株に**感受性有**
- 2) ウイルスの排泄量は少ない  
大量死や家きんへの直接伝播のリスクは  
それほど高くない
- 3) 全身臓器でウイルスが増殖  
捕食動物（猛禽類や哺乳動物）が感染する  
可能性はある



オシドリ



オナガガモ



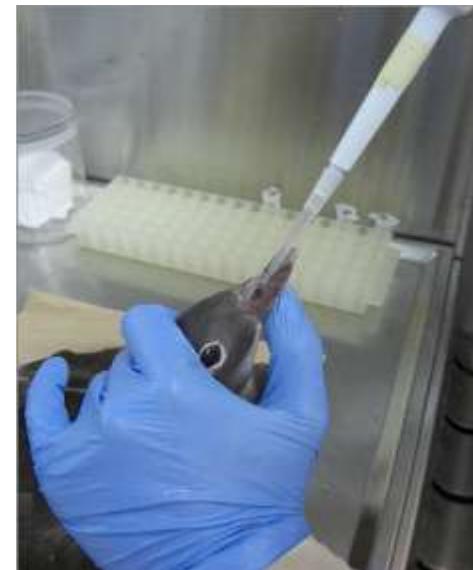
ヒドリガモ



マガモ

### 年度内達成予定

- (1) 年度内に4種すべての感染実験が終了見込み
- (2) 天候や野鳥の状況により、捕獲や捕獲個体の馴化ができなかった場合は、次年度に持ち越し



### 来年度予定

- (1) 大型野鳥（サギ類、ツル類）での感染実験を計画  
@北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター開放型BSL 3 実験室
- (2) 希少種であるツル類を対象とした感染実験
  - ・種の保存法と文化財保護法の手続きが必要。
  - ・関係者の理解を得るのに時間を要する可能性あり。
- (3) 代替種による感染実験、当該種のリスク評価を行うための補足データとして  
野外抗体調査による評価を計画